

算数科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
<ul style="list-style-type: none"> 物の形の名前や図形を構成する要素に注目して、性質を理解する。 定規・三角定規・コンパス等の用具等を適切に使用することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 二つの数量の関係などに着目して捉え、根拠を基に自分なりの考えを発信する。

	児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ブロックを使っでの操作の意味が分からないまま使用している児童もいる。ア 読み書きがまだ不十分なため、問題を正しく読めておらず間違えてしまう児童が多い。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 教師も黒板上で一緒にブロックを使い、説明を聞きながら児童も一緒に操作する。ア 文章中のキーワードに線を引いたり、図で表したりすることで、正しく立式できるようにする。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 随時 随時 	
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> たし算・ひき算の筆算場面で、くり上がり・くり下がり計算力に差が見られる。ア 文章を読み取り、正しい答えを出すことに課題がある。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 東京ベーシック・ドリル(ミライシード)やドリル、計算カードに繰り返し取り組ませ、定着を図る。ア 分かっていることと聞かれていることに線を引き、確認する。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 毎日 毎回の授業 	
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> 図形の性質の理解が定着していない。ア 計算の仕方を自分の言葉で説明することが難しい。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ドリルやミライシードを使って、繰り返し練習する。ア 自分の考えを友達に伝えたり、文に書いたりして、説明する時間を増やす。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 随時 随時 	
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> コンパスや分度器、定規などの用具を適切に使用するのが難しい。ア 考えはもっていても、文章に表せなかったり、発表したりすることが難しい。また、考えをもてないでいる児童も多い。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 図形の学習単位では、三角定規・分度器などの用具を適宜使用する場面を設け、繰り返し練習する。ア 自分の考えを書く時間を継続して確保していく。視点をはっきりと示して、書きやすくする。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 図形の単元 通年 	

第5学年	<ul style="list-style-type: none"> ・図形の性質の理解が乏しく、正確に図形を書くことが難しい児童がいる。ア ・正解か不正解かにこだわり、根拠を基に考えようとする児童が少ない。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を再度確認して、どの段階でつまづいているのか明確にする。図形の性質や言葉について習熟を図るためにミライシードを使用する。ア ・根拠を基に自分なりの考えを伝えあう時間を増やす。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元ごとに ・単元ごとに 	
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> ・図形の意味や性質について理解することや、図形を構成する要素に目を向けることを苦手とする児童がいる。ア ・目的に応じて多様な表現方法を用いながら数の表し方や計算の仕方などを考察する力が乏しい児童がいる。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に操作したり、デジタル教材を使用したりして、視覚的や空間的な位置の処理ができるようにする。ア ・数量の関係を簡潔で一般的に表現したり、式の意味を読み取ったりできるように、言語活動を充実させる時間を多く設ける。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元ごとに ・通年 	

<p>■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について</p>	<p>■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について</p>
<p>1・2年 デジタル教科書を活用し、問題把握をしやすくし、自力解決につなげる。また、個々の考えを全体に広げる場面で活用する。【重点：個別・協働】</p> <p>3・4年 ミライシードを活用し、個人の能力に応じて、振り返りの問題に取り組ませる。【重点：個別】</p> <p>5年 ミライシードを活用し、個人の能力に応じて、振り返りの問題や発展問題に取り組ませる。【重点：個別】</p> <p>6年 図形などをデジタル教材で、一人ずつ手元で操作できるようにする。【重点：個別】</p>	<p>1年 導入で、前時の学習を振り返り、学んだことを生かして本時の課題に取り組ませている。</p> <p>2年 授業のめあてを明確に示し、授業の終わりにめあてを達成できたか確認する。</p> <p>3年 授業の終わりにまとめや学習感想を書いて、振り返る。</p> <p>4年 必要に応じて、問題の数値を簡易化することで題意を把握し、見通しをもたせ、自ら解こうとする意欲を導く。</p> <p>5年 習熟度に合わせて、既習の振り返りをし、学びをつなげて解決できるようにする。</p> <p>6年 解きたいと思えるような問題設定を行う。身に付けた公式や解き方を自ら選んで答えを導き、説明できるようにする。</p>